

# 登山・登攀の記録

## 若丹国境尾根 三国峠～八ヶ峰 スキー縦走

日時:1981年2月27日～3月4日

メンバー:CL 塔下守、SL伊串達夫、吉田保夫

**概要:**山スキーを使って京大芦生演習林の北東端三国峠(△775.9)より西は頭巾山(△871.0)まで延長約24kmの縦走計画。吉田が怪我から復帰で初の合宿参加となったが、途中吉田のスキーの破損などのアクシデントで足並みが揃わず計画行程の中間点八ヶ峰(△800.1)で終了。低山ではあるが寒波直後で雪も多く、積雪期の芦生演習林北辺に足を踏み入れる興味深い山行となり、印象に残った。(記/吉田)

### 記録

2月27日 晴のちにわか雪

梅ノ木(9:20)ー生杉ー若走路谷(15:40)

前夜の降雪により、京都も雪の世界。能登上空には-49℃の寒気団が来ている。今冬一の寒波であった。京都バスを下車して、梅ノ木から「犬の散歩(スキーのトップに紐をつけて引きずり歩くこと)」で出発。昼ごろ、降雪激しくなり視界利かなくなる。降ったり晴れたりして林道を利用できるだけ行く。

2月28日 晴

T. S(7:20)三国峠ー枕ノ谷(16:00)

新雪 15cm。若走路谷を詰めるが途中吉田のザック壊れ応急処置。クチクボ峠手前から左手の尾根に取り付くが、ざら目のクラスト上に新雪・霰が乗っている為登り難しい。コブの手前で吉田スリップ。コブから上は林間の登りで東に雪庇が出ている。予想外に時間を食った為、三国峠ピークを左手に見て通過。稜線を外れ芦生側に滑り降りて幕営。積雪 150cmぐらい。

3月1日 曇りのち雪

T. S(7:40)ー長治谷作業所上手ー杉尾峠ーT. S(16:10)

枕谷を滑降する。長治谷作業所の上手に出てシールを付け上谷に行く。暫く行くと一面雪原と化した野田畑湿原に出る。流れは埋まらず蛇行しており、何度もスキーを脱いで飛越す。誰か一度失敗し、ザックを川の中に沈める。杉尾峠から稜線のコブを巻きや直登で4つ超えた処をT. Sとする。

3月2日 晴

T. S(7:20)ー五波谷峠(14:50)ーT. S(15:50)

数10mのコブを幾つか越えるが、権蔵峠をすぎた所越えた辺りで吉田が転倒した際ビンディング

が板から剥がれてワカン歩行の人となる。皮肉にもそこからはスキーに快適な斜面が多くなる。五波谷峠には京都・福井両側からそれぞれ立派な林道が上がって来ていて大きな石碑(福井県知事)が建つ。・708 の次のコブを越えた所をT. Sとする。濡れたシュラフを夕日に乾かす。夜半冷え込む。

3月3日 晴のち雨

T. S(7:20)ー八ヶ峰ースキー場跡(15:30)

上天気、汗をかきながら快適に八ヶ峰ピークへ。ピークからの展望良好。計画では行く予定だった頭巾山、北に日本海、北東に白山の山々、南は比良・北山、遠く愛宕山まで望める。知井坂までは林間滑降。吉田も駆け降りる。時間不足のため、ここから西進は止めて下山する。・685 のコブの手前で昼食。その後スキーは尾根通し、ワカンは西側を巻いている夏道通し降りてスキー場で会うことにしたが尾根は藪になっていて手こずり、ワカンは道を失って谷へ降りてしまい大分遅れて合流。スキー場跡は植林されていたがその隙間を選んでシュプールを描いた。水はスキー場の下手に出ていた。テントを張り終えた途端に雨となる。

3月4日 曇

T. S(7:40)ー知見(8:50)ー中＝京都

40分程度で麓の八原に着く。山道は狭くて時に杉吊の紐が張っており、スキーで下るに苦勞する。ワカンも膝まで沈んでつらい。知見はバスの便悪く、由良川本流の中村まで歩く。中村から京都交通バスで安掛まで。そこから国鉄バスで京都市へ。(記/塔下)